

400年以上前に伝来した『伊曾保物語』の教訓を自身の経験と結び付け、
同級生に紹介しよう

1 日 時 令和7年11月14日(金) 1校時(9:00～9:50)
場 所 大野東中学校 音楽室

2 学年・組 第1学年2組(男子15名、女子16名、計31名)

3 単 元 観

本単元は、中学校学習指導要領(平成29年告示)国語第1学年〔知識及び技能〕「(3)我が国の言語文化に関する事項」の指導事項「ア 音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむこと。」と、〔思考力、判断力、表現力等〕のC 読むことの(1)「ウ 目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈すること。」を受けて設定するものである。なお、C 読むことの(1)ウにおいては、本単元では、「場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈すること」に主眼をおくことにする。

本単元で扱う「伊曾保物語」は、「イソップ物語」を翻訳したものであるため、生徒にとってなじみのある作品であり、内容も理解しやすい。また、歴史的仮名遣いなど現代の口語とは異なる古典特有の決まりに目を向け、古典の文章を繰り返し音読して、古典特有のリズムに気付かせることができる作品である。そのため、古典の世界について、新たな興味・関心を喚起し、古典に親しませることを目的とした第1学年の学習に適した教材である。

加えて、本作品は、物語とそこから導かれる教訓とで構成されている。物語とそこから導かれる教訓との、場面と描写を結び付けて読むことで内容理解を深めることができる教材である。

4 生 徒 観

古典の学習については、小学校では音読を中心とした学習を行っている。事前に行ったアンケートでは、「古典の勉強は好きですか？」については、「とても好きである」が9%、「やや好きである」が25%、「あまり好きではない」が30%、「嫌いである」が9%、「そもそも古典がどういうものなのか分からない」が30%で肯定的な評価が多いとは言えない状況である。一方で、「古典の学習を頑張りたいですか？」という質問については、「特に頑張りたい」が58%、「普段通り頑張りたい」が30%、「不安がある」が12%であり、意欲がある生徒は一定数いる。

また、9月に実施した「さんちき」の単元終了後に実施した試験において、場面と場面を結び付けて内容を解釈することに関する問題の正答率は、52%であった。誤答としては、説明不足によるものが18%、構造と内容の把握においてつまづいているものが30%であった。

生徒は、自らの意見を全体場で発表することには抵抗を感じているが、自分に役割がある学習は、その役割を果たそうと主体的に取り組む姿が見られる。

5 指 導 観

指導に当たっては、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しませるために、次の点に留意する。

① 単元の学習に入る前から、歴史的仮名遣いの授業を実施し、今回扱う「伊曾保物語」の章段を音読させる機会を設ける。

また、生徒が自己調整しながら学習を進めていけるようにするために、次の手立てを講じる。

② 生徒自身が、自らの学習を調整しながら粘り強く取り組んでいけるように、単元計画の中に中間検討会を位置付けるとともに、各自が学習の計画を立てる時間を設定する。

③ 自分の考えについて吟味し、より深い理解へと繋げるために、ICT機器を活用し、各自の学びの進度に応じて協働的に学べるように仕組む。

6 単元の目標と評価規準

〈単元の目標〉

- 音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。 [知識及び技能 (3) ア]
- 場面と場面、場面と描写などを結びつけたりして、内容を解釈することができる。 [思考力、判断力、表現力等 C 読むこと (1) ウ]
- 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 [学びに向かう力、人間性等]

【本単元における言語活動】

「伊曾保物語」の教訓を自身の経験と結び付け、同級生に紹介する。

〈評価規準〉

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。 (3) ア	「読むこと」において、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈している。 (C (1) ウ)	学習の見通しをもって、粘り強く場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして内容を解釈し、自身の経験と結び付けて班員に「伊曾保物語」の内容を紹介しようとしている。

〈「おおむね満足できる」状況 (B) の姿〉

○知識及び技能

自分の紹介する『伊曾保物語』の章段を音読に必要な文語の決まりを理解して音読することができる。

○思考力・判断力・表現力等

前半部分の物語の内容と後半部分の教訓を結び付けて理解した上で、現代でいうとどういうことか自分の言葉で同級生に紹介することができる。

(例「犬、肉のこと」)

①この話は、犬が肉をくわえて橋を渡る場面から始まる。その犬が、橋の真ん中あたりで立ち止まって川をのぞき込むと、水面に自分の持っている肉が反射して映っていた。自分がかわえている肉よりも大きそうだったので、取ろうと口をあけた。すると、自分がかわえていた肉を落としてしまった。要するに、欲張って、自分のものではないものも手に入れようとした結果、すべてを失ってしまっていることから、欲張らず、目の前のものを大切にしないと、自分の財産も失ってしまうことがあるとわかる。

②現代でも起こりそうなことで言うと、「いい点を取ってほめられたい気持ちから、どうしても点数を上げたくてカンニングしてしまい、その場で点数はとれたが、後からバレて、全教科0点になり、先生からも信用されなくなってしまった。」という例が挙げられるよ。

①…物語の作品紹介

②…教訓が生かせそうな自分の経験談・未来予想談（物語の登場人物を置き換えるのではなく、後半の教訓エピソードを理解したうえでの内容を書く。）

7 指導と評価の計画（全8時間）

次	学習活動	指導上の留意点	観点			評価
			知	思	態	評価規準【評価方法】
1	「伊曾保物語」学習のゴールを知り、学習活動の見通しをもつ。					
	<ul style="list-style-type: none">・ガイダンスで学習の進め方を知る。・歴史的仮名遣いに注意して「犬と肉のこと」を全文音読する。・「犬と肉のこと」の内容をWSを用いて理解する。・教訓部分を読み、同じような経験をしたことがないか考え、ミライシードに打ち込む。・経験が内容とリンクしているかどうか全体で考える。 <p>(1時間)</p>	<ul style="list-style-type: none">・付きたい力、言語活動について明示する。・教訓部分は初めて読むため、正しく読めているかどうか丁寧に確認しながら進める。・現代語訳だけで理解が難しい場合は、イラストも提示する。・経験がない場合は、未来予想談(将来こんなことがあるかもしれない)でもよいと指示する。・全体で考えた後、物語の作品紹介や教訓が生かせるような自分の経験談・未来予想談をつなげて発表する際に、使えるような接続詞を紹介する。				
2	担当する作品の内容の理解を深め、自身の経験と結び付ける。					
	<ul style="list-style-type: none">・「蟻と蟬との事」「鳩と蟻との事」「鼠ども談合の事」「馬との事」「荷物を持つこと」の中で自分が担当する作品を決める。・中間検討会までに行うミッションについて、進捗確認表を見て確認し、残り2時間分の計画を立てる。・各自が立てた計画に沿って、学びを進めたり深めたりする。 <p>(3時間)</p> <div><p>ミッション</p><ul style="list-style-type: none">○歴史的仮名遣いに注意して、担当する作品を音読する。○担当する作品に書かれている内容をまとめ、WSを完成させる。○教訓部分と同じような経験をしたことがないか考える。(ミライシード)○中間検討会で担当作品を紹介できるように発表メモを記入した上で各自で学習を進める。</div>	<ul style="list-style-type: none">・ミッションは、クラス全員が何をしているのか見られるように、分からない生徒が同じことをしている生徒に質問できるように、(スプレッドシート・ミライシードにめあてを書くこと)で共有する。・担当作品が同じメンバー同士で正しく音読ができているか確認させる。・担当する作品が同じメンバーと必要に応じて、協働的に学習を進めさせる。・早く終わった生徒は他の作品も分析した上で、紹介する作品を決めるように促す。				

3	グループ内で中間検討会をする。					
	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数のグループを作り、グループ内で、現在説明できる部分まで、本番を意識しながら担当作品を紹介する。 ・紹介後、発表した内容は本当にあっているのか検討する。 ・中間検討会を踏まえて、残り 1.5 時間の授業の中で最終発表会に向けて何をするか計画を立てる。 (1 時間 本時) 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループを指定することで、自分から聞きに行きにくい生徒や自分だけで学習を進めていきたい生徒も意見を交流できるようにする。 ・しっかりと内容の吟味ができるようにする。 ・発表シートには、検討会で聞きたい検討事項を事前に書かせておき、中間検討会がスムーズに進められるようにする。 		○		<ul style="list-style-type: none"> ・場面と場面、場面と描写などを結びつけたりして、内容を解釈している。(C (1) ウ)【ワークシート】
4	中間検討会での気づきを生かして発表に向けて更に自分の考えを深める。					
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で立てた計画をもとに、更に自分の考えを深める。 (1.5 時間) 	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての生徒の進捗状況が把握できるシートを共有し、生徒が自らの判断で協働をしながら学習を進めていけるような環境を整える。 			○	<ul style="list-style-type: none"> ・粘り強く「伊曾保物語」の内容を解釈し、どんな教訓が当てはまるか考え、自身の経験と結び付けて、中間検討会での反省を生かして検討会に向けて準備を進めている。【授業の様子・振り返り】 <p>なお、第三次と合わせて総合的に評価するものとする。</p>
5	担当した作品を紹介し合い、まとめ・振り返りをする。					
	<ul style="list-style-type: none"> ・担当した作品を音読し、作品を紹介する。 ・それぞれの作品に描かれているものの見方や考え方をそれぞれまとめさせ、なぜ日本で「伊曾保物語」が広まったのか考えることができる。 (1.5 時間) 	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ違う作品同士でグループを組む。 ・発表の様子はクロームブックを使って録画し、終了後、提出させる。 ・現代の私たちの生活にも通じるものがあることに気付かせる。 		○		<ul style="list-style-type: none"> ・音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。 (3) ア【撮影した動画】

8 本時の学習

(1) 本時の目標

自分が担当する「伊曾保物語」の内容の解釈が正しいかどうかグループでの協議を通して検討することができる。

(2) 本時の展開

学習活動	指導上の留意事項	思考の流れ	評価基準 (評価方法)
1. 既習事項、本時の流れを確認し、本時の目標を設定する。(3分)			
<ul style="list-style-type: none"> ・前時の確認をする。 ・本時の目標・流れを確認する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・発表会で間違った内容を紹介しないようにしっかりと検討しよう。 	
<div> 目標 自分が担当する「伊曾保物語」の内容の解釈が正しいかどうか検討することができる。 </div>			
2. 担当した作品を伝え合い、内容があっているかどうか検討する。(35分)			
<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに、それぞれ発表メモの内容を項目ごとに発表し、検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動を電子黒板に映し出し、視覚支援をする。 ・発表メモに書かれている内容が正しいかどうか言葉にこだわって吟味させる。 ・つまづきが予想されるグループの支援をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古文や現代語訳ではこう表記されているから、この言葉で表すのは少し違うかもしれない。こっちの表現の方がしっくりくるかも。 ・この具体例は教訓と少しずれているから、違う具体例を考えた方がいいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面と場面、場面と描写などを結びつけたりして、内容を解釈している。(C (1) ウ)【ワークシート】
3. 学習の振り返りを行う。(12分)			
<ul style="list-style-type: none"> ・中間検討会で気付いたことを振り返る。 ・中間検討会を踏まえて、残り1.5時間の授業の中で最終発表会に向けて何をするか計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分と同じ作品の人の気付きにも目を通せるようにするために、ミライシードに振り返りを書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・私は、教訓と経験がうまく結び付いていないと思っていたが、検討会を通して、結び付けるためには、経験談をこんな風に変える必要があると気付いた。だから、次回からは、発表に向けてこんなことをしたい。 	